

教育者研究会で学びました!

平成27年8月11日(火)第52回教育者研究会岐阜県4会場の内本巢会場を担当しました。場所は岐阜もとすモラロジー事務所です。

当日までに事前打合せ会を持ちました。前日準備など河村松男代表世話人をはじめ岐阜もとすモラロジー事務所の方々が熱心にやってくれました。当日は本会役員・理事の皆さんが会場設営や講師迎え駐車場、受付など、率先してやってくれました。全体の進行は、北村あずさ会計が担当しました。多くの支えに感謝しての開会です。

研究会テーマは、引き続き「思いやりの心を育てる」であります。

開会式は、国歌斉唱の後、岐阜県モラロジー協議会副会長・山岡浜三郎氏の挨拶、公益財団法人モラロジー研究所東海ブロック副部長・宮田敏子氏による主催者挨拶がありました。全国各地で開催されている紹介と研究会参加者へのお礼、期待を述べられました。

また、開催地を代表して藤原勉本巢市長より、教育と現職教員にかける熱い思いを語るご挨拶がありました。



開会挨拶
山岡副会長



主催者挨拶
宮田副部長



来賓挨拶(本巢市)
藤原市長

平成27年度 研修内容

第1講「子供の心を育てる」

社会教育講師 栗本 貞子 先生

栗本先生は、岡山県倉敷市の中学校で校長として活躍され、現在も教育委員会のお仕事とモラロジー教育者講師としての活動を両立なさっておられます。

まず、モラロジー教育と教育者研究会の役割についてお話されました。次に、教師自身がよりよい生き方を求める必要を説き、「思いやりの心=他者の幸せを願う心=慈愛の心」で全教育活動を展開するご自身の実践例を紹介されました。

特に、「自分より他の幸せを」「相手を最優先」の考えを資料化した「おかげに気づく」の授業実践は心に響きます。宮澤賢治を師と仰ぐ小生、彼の言葉が脳裏に蘇りました。「~のおかげ」と「~のせい」を比較してみることは、子供の心を豊かに育てる最適な方法の一つだろうと思いました。夢や希望のもてる道徳(授業)の実践を願う立場からも、より多くの教室で行われることを期待しております。

教育実践発表「共に生きる喜びをつくりだす子の育成~自己肯定感を高め、道徳教育を補充、深化、統合する指導計画の工夫」

瑞穂市立本田小学校 大羽 淳也 教諭

昨年の小学校道徳教育研究会においては授業者としてご活躍(本会3月実践研究会で発表も)の大羽先生でしたが、今回は、本田小学校が進める道徳教育の全体像を語っていただきました。



道徳教育では、「自己肯定感を高め、共に生きる人としての実践力を身につける。」を課題に、校長の指導の下、学校の全教育活動で熱心にかつ丁寧に取り組まれていることが伝わってきました。

全体計画で各学年の重点目標を6つから4つに絞ったこと、別葉は日々の実践に役立つように月別に作成し目に触れるようにして手直しを加えていること。『私たちの道徳』の配当学年決め、重点内容項目から資料内容やねらいを吟味して配列し直したこと。道徳と総合的な学習の関連性等、わかりやすく紹介してくださいました。

これから取組を強化しなければ…という多くの学校にとりましては、良い先例として活用できるのではないのでしょうか。正木小・野田教諭 外山小・大野教頭、中央小・宮田教諭、北方町・伊藤氏から質問や感想をいただいたことで、より理解が深まったことに感謝いたします。

最後に、道徳の授業のことを、学年会で話題にする（できる）学校になることが重要であると感じた次第です。

第2講「これからの道徳教育」

文科省初等中等教育局教科調査官

赤堀 博行 先生

赤堀先生は、学校における道徳教育の指導第一人者として、全国各地を駆け廻っておられる方です。岐阜県でも長きにわたりご指導、ご講演を賜っております。

今年は、「道徳の教科化」の道筋が示された年でもありますので、関心が高まる中でのお話でした。

はじめに、「文科省速報値」を示され、児童生徒数の減少の中での不登校の増加傾向は、今の学校が児童生徒に心の安らぎの場になりきれないことを指摘されました。スクリーンの人物の考え方・判断を通して、道徳教育は児童生徒それぞれの考え方が尊重されることを目指していることも教えていただきました。次に、道徳教育について、



どのような答申がなされ今日の状態に至ったのか、その経緯を丁寧に解説してくださいました。これまで道徳教育が現場で軽視されてきたことをやんわりと批判されました。さらに、「これからの道徳教育」をどのように理解し実践していくとよいのかについて、詳しく解説していただきました。『私たちの道徳』の中心的な資料の活用例を数多く示してくださいました。充実させるためには、本田小学校の進め方が良い例になることを裏付けてくださいました。

いつものように、核心を分かりやすく解き明かすお話でした。



最後に、子安会長より、研究会の総括をしていただきました。講師三人の方の内容に触れてお話をされた後、赤堀先生のエピソードを紹介されました。「今年、岐阜県内でも3会場でご指導いただきましたが、そのお話が少しずつ違っているのです。これは、常に新しい情報を収集し明日に備える姿勢の表れなのだと思います。赤堀先生ほどの方がそれだけの努力をされてい

るので、自ら求めて参加した先生方の今後のご努力に期待しています。」と、呼びかけられました。

参加者人数 86 名。ボランティア参加（NPO 法人バン格拉に愛の学校を）等を含めると、約百名の方が会場に集いました。現場の先生方への呼びかけが今一つ効果を上げていない反省はありますが及第点をいただける教育者研究会になったと、自負しております。

アンケート用紙には、好意的で実践に立ち向かう意欲的な内容が数多くありました。

ご尽力いただきました関係者の皆様、誠に有難うございました。

【文責・森山】
熱心な会場の風景

